

袋角（ふくろづの）成長中

ホンシュウジカのオスは毎年角が生え換わります。春先に古い角が根元から落ちると、すぐに新しい角が生え始めます。皮膚をかぶった「袋角」で、初夏から秋にかけてぐんぐん成長します。成長に必要なので、皮膚には血管が豊富なため、この時期に角を傷つけてしまうと出血してしまうので、袋角のオスは大人しくしています。秋、角の成長が終わると血流の止まった皮膚が破れて、硬くなった角が姿を表します。もう出血を恐れる必要はないので、木の幹で角の先を鋭くとぎ、オス同士の闘争が始まります。そして冬を越えると…の繰り返し。
オスの年齢が上がってくると枝分かれも増え、成長中とはいえ立派なものです。そして、生まれつきなのか、角が出てくる途中で傷がついたのが原因なのか、たまに変な形のものも。
数日見ないうちに角の形や長さが変わっている、というのはこの時期ならではの。



第16回 秋の動物園まつりのお知らせ

- ・日時：平成28年11月20日（日）10時～15時
 - ・動物リレーガイド、シマウマ・ヤギの餌やり体験、バックヤードツアー、ふれあいコーナー、野鳥クイズコーナー、竹細工コーナー等
 - ・小雨決行
- 詳しくはホームページ・市政だより等もご覧ください。



★ピックアップ動物★

ハートマンヤマシマウマ

哺乳綱 奇蹄目 ウマ科

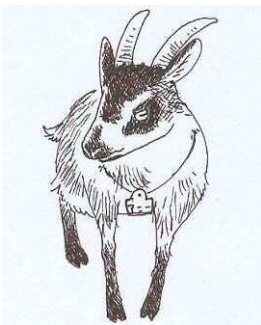


ヤマシマウマという種類のなかにケープヤマシマウマとハートマンヤマシマウマの2亜種があり、ハートマンヤマシマウマはナミビア、南アフリカなどの山岳地帯に生息します。野生では絶滅が心配される動物で、幅の狭い耳や首の前の肉垂などが特徴的です。縞模様もシマウマの種類ごとに異なります。

夢見のシマウマたちは左後肢の付け根の様子が個体ごとに違うので、見分けるのに役立ちます。切れ目のないのがオスのピリー。比較的穏やかで、あまり動じない性格です。縞が途中で止まったような模様があるのがメスのミドリ。繊細な部分があります。ばってん模様になっているのが2頭の息子、アース。若いいためか、最近では怖いもの知らずでかなりやんちゃな面が出てきました。とはいえ、感情豊かな動物であり、それぞれあくまで「一面」です。季節、時間帯、精神状態で様々な顔を見せてくれます。

砂浴びをしたり、走り回っている時は要注意。本人に悪気がなくても（もしかしたらちょっとはあるかもしれませんが）、砂や土が外に飛んで来ます。

獣医の日記



今でも時々「ヤギは紙を食べるの？」とお客さんに聞かれることがあります。昔はそんな歌があったりしたからか、そのように思われていたのかもしれませんが、ヤギの食べ物は草です。しかし、動物園で飼育員から餌をもらっている彼らは、人間がくれるものに警戒心を持たず、食べてはいけないものを口にしてしまうこともあります。ある風の強い日、ヤギのアニーが飛んできたビニール袋を食べてしまった、とお客さ

んに教えられました。さあ、どうしよう。口から器具を突っ込みましたがもう出せません。大きいまま腸に運ばれ、腸の細い部分で詰まったら死んでしまうこともあります。短時間で真剣に話し合った結果、手術で取り出すことにしました。とはいえ手術すると消化管（胃腸）に大きなダメージを与えます。たくさんの繊維質を休みなく食べなくてはならない草食動物の胃腸が動かなくなることは、死につながります。

数時間に及ぶ手術で、4つある胃の一つから無事、反芻で少しぼろぼろになりつつも大きな形のままのビニールを取り出しましたが、獣医も飼育員も、アニーもぐったりでした。翌日から餌を食べ、ウンチも出始め、リハビリの運動もしたりして、2週間後には無事退院できました。たまたま今回は運が良かっただけ。人間のそばで暮らしてもらっている動物が、人間のせいで危険な目にあうことの無いよう、皆で気をつけていかななくてはならないと強く思いました。



★動物たちの主な移動(平成28年5月1日～平成28年7月31日)★

コモンマーモセット(♂1死亡)、マーコール繁殖(♂3♀3)、ブラウンキツネザル繁殖(♀1)、ハイロココジャク搬入(♀1)、フサホロホロチョウ(♀1死亡)、ホンシュウジカ繁殖(♂1?1、うち1頭死亡)